

四日市市諏訪町1-5
四日市市教育委員会
社会教育課内
059-354-8238
印刷 阿竹印刷工業(株)

四日市市PTA連絡協議会
発行責任者 杉戸 雅巳

市P連ニュース

四日市市PTA連絡協議会事務局
TEL 354-8238 FAX 354-8308

〒510-8601 四日市市諏訪町1-5
四日市市教育委員会 社会教育課内
事務担当: 宮本 華代
連絡時間: 月・火・木・金9時~15時

会長あいさつ

四日市市PTA連絡協議会 会長 杉戸 雅巳



本年度も終りに近づいて参りました。皆様方におかれましてはどのような一年間だったでしょうか。もう終わりと終わる方、まだ終わらないのかと思われ方など様々な感想をお持ちの事と思います。

しかし、本当に子どもの頃と比較して、一年が長くなったと感じませんか。ご存知の方もみえるかもしれませんが、時間感覚の違いについて有名な説がいくつかあります。まず最も有名な理由は、一九世紀の哲学者が提唱した「ジャンネーの法則」です。これは例えば、五〇歳の人間にとつて一年の長さは人生の五〇分の一ですが、一歳の赤ちゃんにとつて一年間という時間は自分の全人生の長さである。年を取っていくと、生きてきた年数によつて一年の長さの比率が小さくなり、時間が早く感じられるという考えです。また、経験値が大人と子どもでは違うので時間の感じ方が違うという説

もありません。子どもの頃は初めての体験が多いので時間が長く感じるが、大人になれば新鮮味のあるものに接する機会が少なくなり、毎日が同じことの繰り返しになりがちなので、時間があつという間に過ぎ去つてしまふという考えです。

PTA活動の中で難しいことの一つに、人の入れ替わりが早いということがあるのではないのでしょうか。各学級の役員さんの多くは一年任期であると思ひます。しかし人のサイクルが早いことについても悪い部分だけではないと思ひます。最初に書いたように、新しい経験を積み重ねる子どもは、我々大人にも当て嵌まると考えられるからです。市P連も、各学級園さんでも、新しい役員さんや新入学園生の保護者の新会員の方。新しく赴任される先生方を迎えることでマンネリ化が防がれているのではないのでしょうか。

そしてPTA活動を考える上で、地区の各団体や行政との繋がりは欠かせないものです。特に少子化がさらに進むといわれる今後は今まで以上に密接な連携が必要となると思ひます。その中で行事の取捨選択などの議論や新規行事の企画などが持ち上がりつつあることもあるかと思ひますが、新旧の会員の活力と知恵と経験を活かして、子ども達のために形を作り上げていきたいものです。私たちが今年長いと感じるような新しい経験を積み重ねることが、結果として子どもたちのためにPTA活動に繋がると信じます。

今年度市P連の会長を務めさせていただいておりましたが、多くの皆様と体験を共有できたのは何よかったです。「よりよい未来を子どもたちに」という考えのもとに努めてまいりましたが、少しでも皆様のお役に立つたことがありましたら幸いです。まだ任期は残っておりますが、残りの任期も、会員の皆様と親子で笑つて過ごせる環境づくりに励みたいと思ひますので、会員の皆様方のご支援を宜しくお願い致します。

平成28年11月12日(土)四日市文化会館第三ホールにて、小学校・中学校委員会合同企画として、鶴の森「優」の代表であり、心理カウンセラーの水野優子さんの講演会を開催しました。水野先生ご自身がこれまで実践し、手応えを確信され



小中講演会 やる気スイッチONとOFF

講師 水野 優子さん

た経験と共に、心理学を用いた子育てへの関わり方として「エゴグラム」という心理学の性格判断を用いた子どもとの接し方などを中心とした講演でした。

「自尊心」「自己肯定感」「ロジカルな力」「我慢の力」「積極性や好奇心」の5つの要素を上手にバランス良く育てること、子どものやる気を引き出す事ができる等、実践的なこともへの対応の仕方を教えていただきました。最後に水野先生の「他人は思い通りには変えられない!でも、自分は自分でなりたい自分に近づくと



とができる。自分が変わることで、自分の未来や他人との関係は変えられることでもあります。」という言葉がとても印象的でした。



平成29年1月28日(土)四日市勤労者・市民交流センターで人権学習会を開催しました。

天台宗僧侶の藤井妙法さんをお招きしてお話ししていただきました。藤井妙法さんは、様々な修行を経て、京都教育大学で心理学を、大谷大学で仏教学を、京都

人権学習会 みんな同じ人間なもの 人の痛みがわかる人間になろう

講師 藤井 妙法さん(天台宗僧侶)

大学で哲学を学ばれ、現在は年間150回以上の講演会をされています。

仏門に入られるまでのお話や学生時代のお話の中から、どんな人が魅力的に人を生きて抜いていけるかを教えていただきました。

それは「自分は〇〇をする為に生きています」と自分の存在価値を明確に持っている人が、どんな困難にも耐え抜く事ができる人であるという事でした。

他にも、子育てをする中で、とても大切な事も教えていただきました。



「子どもは、自分を信じて、見つめてくれている目があるうちは、回り道をしたり、たとえ道を少し踏み外してしまつたとしても、必ず戻ってくる。だから、見放さず、見捨てず、絶対に無関心になつてはいけません」という事でした。

子ども達が自分の存在価値を明確に持つよう、見守つていたいと思ひました。

平成28年5月29日(日)四日市勤労者・市民交流センターにて四日市PTA連絡協議会の講演会が行われました。

講師には、静岡県で23年間教壇に立つておられた親野智可等さんにお越しいただきました。先生は小学校で学級担任をされ、中学校では国語の教師をされておりました。教員は650名ほどにもなるそうです。メルマガジン「親力で決まる子どもの将来」を発行された新聞・雑誌など様々なメディアで取り上げられ、話題になつていきます。

講演は、先生が教師時代に出会つたある男の子のスピーチから始まりました。

その男の子は、毎日、お母さんに「早くしなさい!」「いつまでやつているの?」などと、叱られていると話したのでした。それを聞いたクラスメイトたちは共感し大盛り上がりしたようですが、



先生は「多くの親がこのように子どもを叱つているのか?」「これはまずい!」と思つたそうです。「しつやだめですよ!」といった否定的な言葉を雨あられに子どもに浴びせ続けると、二つの悪い効果が出てしまうそうです。

一つ目は、周りの人の評価を気にしすぎて、子どもが自分自身に自信を持ってなくなりマイナスな自己イメージを持つてしまう事です。マイナスな自己イメージを持つと、何事も否定的に考え、すぐにあきらめるようになってしまつてしまいます。

二つ目は、愛情不足を感じ素直になれず、相手に対して不信任感を持ち、不安でたまらなくなつてしまう事です。

このような子どもにならない為には「工夫して褒める」がとても大切だそうです。工夫には「行動の工夫」と「言葉の工夫」の二種類があるそうです。

行動の工夫として、例えば、時間が守れない子には模範時計を作るというものがあります。画用紙にアナログ時計を書き、勉強する時間や寝る時間を書き込んで、時計の隣に貼るといいものです。このようにすると、だんだんと体が勝手に反応して「しないといけない」と感じ、出来るようになるそうです。初めは出来なくても親子で一緒にやつてあげて出来た時に褒めてあげてください。工夫して工夫して改善していく事で子どもが自分の気持ちをコントロールでき、自分のやりたい事が見つかりやる気スイッチが入つて変わっていくのです。夢や目的のスイッチが入つた時、達成したいと自立が出てきます。自立とは自分で何でもできるようになる事ではなく、やりたい事を自分で見つけ、自分の力でやつていく事です。その為に、子どもがやりたいと思つてい

広報紙コンクール

平成29年2月11日(土)、四日市市文化会館に於いて、平成28年度四日市PTA連絡協議会広報紙コンクール表彰式が開催されました。本年度は42校園の応募がありました。どれも各校園の活動や、PTAの取組みの様子が伝わる素晴らしい作品で、甲乙付け難いものばかりでした。ここに厳正なる審査の結果、入賞校・園のご報告をいたします。



- 最優秀賞
 - 中日ホームニュース賞
 - 優秀賞
 - 入選
 - 表紙部門賞
 - レイアウト部門
 - 企画部門
- 中部中学校
桜中学校
小山田小学校
川島小学校
内部幼稚園
豊原小学校
保々小学校
富洲原小学校
富洲原中学校
大池中学校
大矢知興譲小学校
西陵中学校
中央小学校

総務委員会

総務委員会は各ブロック長(単位PTA会長)と教職員代表の先生とで構成されたメンバーです。活動として、年数回ある常任委員会(会長会)の司会進行、ブロック会、人権学習会、定期総会などの運営をしてきました。

活動された主なメンバーは各単P会長と兼務されており、市P連活動と並行していく事は大変だったと思います。委員会の中では会としての運営について、打ち合わせ、意見交換など協力体制を整えながら取り組んでいきました。

一年間と短い期間ではありましたが、内容の濃く多忙なスケジュールと一緒に取り組んで頂いた事、今後のPTA活動に生かしていきたいと願っています。

車谷 由美 (委員長・羽津中P)

谷村 陽平 (委員長・三滝中P)

岡田 由恵(中部西小T)

櫻井八十美(保々小P)

堀川 雅夫(羽津中P)

大野 武毅(中央小P)

天野 美保(日永小P)

谷 和恵(県小P)

笠田 幹人(塩浜中T)

杉戸 雅巳 (市P連会長・笹川西小P)



小学校委員会・中学校委員会

小学校委員会・中学校委員会は本年度、新たな試みとして、子どもとの関わり方について専門的な話を聞く機会を作ろうと、合同で講演会を企画し、その準備に取り組んでまいりました。

幼稚園委員会

幼稚園委員会は、委員長と幼稚園委員、教職員代表の計七名で活動しています。



ホールにおいて、心理カウンセラーの水野優子さんを講師にお迎えし、講演会を開催することが出来ました。短い期間でしたが、皆で一つのことを成し遂げた経験は、とても貴重なものとなりました。

11月1日(火)に市内公立幼稚園の代表の方々に参加して頂き幼稚園交流会を開催致しました。爽やかな幼稚園生活の参考のひとつとして頂けたら嬉しく思います。幼稚園園だよりも是非ご覧下さい。

教職員委員会

市P連には、教職員として公立幼稚園、小中学校の代表がメンバーとして入り、活動しています。ブロックごとに選出された教職員の代表が、それぞれの委員会に所属し、学校現場の視点から、情報発信をしたり、意見交換をしたりしています。



●中学校委員会
仁和 有子 (委員長・三重中P)
古川 優喜 (副委員長・山手中P)
松井 久和(富洲原中P)
伊藤 徳二(橋北中P)
伊藤 多恵(常磐中P)
永谷 直子(西笹川中P)
川上 太郎(桜中P)
牛江 芳将(富田中T)

広報委員会

広報委員会の主な活動はこの市P連ニュースの発行と広報紙コンクルの開催です。それに向けての最初の活動として、昨年五月に「広報紙づくり」研修会を開催いたしました。たくさんの方々にご出席いただきました。



●広報委員会
井上 悠加(大矢知幼P)
加納 絵美(海蔵幼P)
小澤明日香(四日市幼P)
甲斐 敦子(泊山幼P)
荒井 千春(三重幼P)
山崎 博子(山手中T)

顧問

市P連顧問としてご尽力いただきました。鋭いご助言温かいご指導を頂き、一年間ありがとうございました。



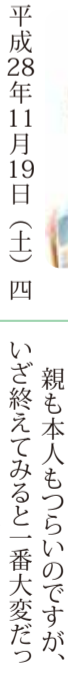
今村 新次(中部中学校長)
鳥羽 克也(下野小学校長)
刑部 純子(羽津幼稚園長)
寺本 幸世(西朝明中P)
大塚 麻矢(海蔵小P)
小宮真理子(塩浜中P)
高宮枝美子(南中P)
松尾 香(桜小P)
石原 香(三重西小T)

幼稚園交流会

平成28年11月1日(火)四日市文化会館にて、幼稚園交流会が開催されました。

交流会では「幼稚園行事の情報交換」「降園後の過ごし方をテーマに5グループに分かれて話し合いをしました。話し合いでは、幼稚園児を育てる保護者として様々な意見を頂くことができました。

家庭の目講演会
子は育ち、親も育つ。
楽しまなくちやもつたない
講師 育児漫画家 高野 優さん



平成28年11月19日(土)四日市市文化会館で、育児漫画家・高野優さんの家庭の日講演会が開催されました。

高野さんは北海道生まれの三姉妹の母、育児漫画家でありエッセイストです。「みつばのクローバー」など多数の著書を出されています。昨年には、初めての絵本「よつめの約束」を刊行されました。漫画を描きながら話すという独特なスタイルで、全国各地で子育ての講演会を行ってられます。

NHK教育テレビ「土よう親じかん」となりの子育てで2015年5月、第8回ベストマザー賞受賞など多数にわたり様々な世代の子育てのアドバイスもされています。

早速、サラサラサラ...と漫画を描きながらの講演が始まると、会場は引き込まれるように高野さんの声と絵に感嘆の声があがりました。会場には、小学生・中学生の保護者の方が多く来場されていましたので、思春期のお話から始まりまして、ギャング

PTA会員寄稿

「反抗期なのかな?」

今年の4月から中学生になる息子がいます。仕事が忙しく4年生頃から、ほぼ1人でご飯を食べさせ、土日も中々遊んであげることができませんでした。6年生になってから少し反抗的な態度を取る様になり、「自分で出来るし」とか「買い物?どーしてもついてかなあかんの?」何か聞くと「別に!」のオンパレードで、お前は尻尻エリカかぁーと思いつつ「あ!これが反抗期なのかな?」でもここで感情的になって叱っていいものなのかわからず、すごく悩んだ時期がありました。だけど、今更ご機嫌取りをしたり、喜ばせ様としても空回りばかりで余計に自分を追い込む一方でした...。考えてみると息子は確実に成長している声変わりも、いつの間にか青年になろうとしている真っ最中で、もう「ママ!ママ!」で言ってくれる様な子供では無くなっている事に気がきました。それからは私からちょっかいをかけたりするのはやめ、息子が頼ってきてくれるのを待つ事にしました。そうすると何気に「なあなあ youtube 見てみ。ヒカキン凄いでー!」とか「塾で単語覚えやなあかんで暗記カード買いたいんやけど百均行ってくれやん?」とか「小さい時みたいにベットに放り投げてよ〜!」と自然と歩み寄ってくれるようになりました。すごく些細な事かもしれませんが、私と息子にとっては大きな試練でした。これからも温かく子供の成長を見守っていきたいと思います。

【お知らせ】
平成29年度 市P連総会後の講演会
日程:平成29年5月28日(日)
講師:育児漫画家 高野優さん
家庭の日講演会にて大変好評を博しました高野優さんに再度お越しいただきます。
PTA会員なら参加可。案内は4月中旬各学校およびPTA会長へ送付いたしますので、改めてご確認ください。



高野さんは、6つ上の何から何までトップクラスの姉と比べられて育ったそうです。小学校の運動会は、その頃は小学校と中学校の運動会が同じ日だったそうです。両親に一度も来てもらえなかっただけでなく、お弁当もなかったそうです。そんな渦中でも非行に走ら



皆様のご協力のおかげで、平成二十八年度も市P連ニュースを発行することができました。この一年間、市P連活動の様々な活動に参加して頂きました。最初はよくわからないまま活動をしていましたが、参加を重ねるごとに、気づいたことがあります。それは、PTA活動が大勢の人によって支えられているということです。誰もが忙しい毎日の中、「子どもたちのために」という思いをもって、たくさんの方々の活動を支え運営していただいているということがわかりました。また、私自身様々な方と出会う活動とともに、改めてPTA活動の大切さや素晴らしい実感できるよい機会となりました。

編集後記



なかつたのは、家庭以外の周りの人たちが先生たちから、手をかけ、目をかけ、声をかけてもらっていたからだと、高野氏は言われています。誰も応援に来ない運動会には、毎年「作りすぎた」と子どもに恵まれなかった男の先生の手作りのお弁当をもらい、一緒に食べてくれたそうです。辛酸をなめるような高野さんの育ちは、涙なくしては聴けませんでした。最後に高野さんは強調されました。自分の子だけでなく、自分の周りにいる子どもにも、「声をかけ、目をかけ、手をかけてあげてください」と。私たちが今いる場所から、喜々として周りにいる子どもたちの成長も見守っていききたいですね。